

形大労第 37 号
平成 22年 10月 15日

各学部長（附属支援施設等を含む。）
基盤教育院長
附属学校（園）長
山形大学 事務局各部長（監査室、EM室、
大学連携推進室は室長、国際化主幹は主幹） 殿
小白川事務部長（小白川図書館、附属博物館及び
情報ネットワークセンターを含む。）
保健管理センター所長

山形大学男女共同参画推進室長
理事 北野通世

男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）

男女共同参画推進室では、取組みを実のあるものにするために、過去2年度アンケート調査を行って参りました。昨年度は半数以上の皆様にご協力頂き、結果は報告書にまとめるとともに、男女共同参画推進に活用させて頂いております。本年度も下記の通りアンケートを実施いたします。つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、個人情報保護には十分配慮して行いますので、ご協力くださるようお願いいたします。

なお、各部局で回収いただいたアンケート用紙は、11月10日（水）までに男女共同参画推進室へ送付願います。なお、回収率の確認のため、対象者に配付しなかった余りの部数を送付の際に併せてお知らせください。

記

1 実施日程：

- | | |
|------------------|------------------|
| ①各部局へアンケート用紙の到着 | 平成22年10月19日（火）まで |
| ②各部局での対象者への配布期間 | 10月20日（水）～22日（金） |
| ③各部局での回収期限 | 11月5日（金） |
| ④男女共同参画推進室への送付期限 | 11月10日（水） |

2 アンケート内容：別紙アンケート用紙の通り

3 調査対象者：山形大学の全ての教職員と大学院生

各部局での対象者の数は別紙各部局対象者数の通り

教職員： 定時勤務職員及び短時間勤務職員を含む
医学部にあつては医員及び研修医も含む
各部局の附属支援施設等の教職員を含むので、別紙アンケート用紙のQ2「所属部局」の欄で確認願います。

大学院生：社会文化システム研究科（修士課程）

教育学研究科の修士課程・地域教育文化研究科の修士課程

医学系研究科の博士課程・博士前期課程・博士後期課程・修士課程

理工学研究科（理学系）の博士前期課程・博士後期課程

理工学研究科（工学系）の博士前期課程・博士後期課程

農学研究科の修士課程・岩手大学大学院連合農学研究科の博士課程（山形大学の教員を指導教員にする学生）

以上の全ての大学院生を含む。

ただし、教育実践研究科（専門職学位課程）、養護教諭特別別科は対象者に含めない。

4 実施方法：過去2年度と同様に、配付及び回収方法を含め各部局に一任します。

〔 本件の問い合わせ先：男女共同参画推進室 調査担当 坂無 淳
Tel:023-628-4939 E-mail: sknsj@jm.kj.yamagta-u.ac.jp 〕

男女共同参画に係るアンケートのお願い

平成22年10月22日

山形大学男女共同参画推進室 室長（理事） 北野 通世

山形大学は、平成21年度から文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択され、男女共同参画推進室を中心に男女共同参画を推進しております。その取組みを実のあるものにするために、本学の実態と皆さまの意識の把握が必要であると考え、過去2年度アンケート調査を行って参りました。過去2回とも多くの方々からご回答をいただき、大変感謝しております。その貴重な情報は、報告書にまとめ、男女共同参画推進室の取組みに反映させて頂いております。

報告書は以下の男女共同参画推進室のホームページに公開しておりますので、ご覧ください。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/works/toukei.html>

上記の目的のため、今年度もアンケートを実施いたします。お忙しいところ恐縮ですが、本学の実態と意識の経年変化をとらえることが必要なため、ご回答をどうぞよろしくお願い致します。

個人が特定されることがないように、今回のアンケートも無記名で実施しますので、率直なご意見をお寄せください。記入後は封筒に入れて提出頂くため、各部局の担当係が内容を見ることはありません。また、回収したアンケート用紙は、男女共同参画推進室でのみ扱い、質問項目別に統計的な処理をし、分析終了後は直ちに破棄します。

ご記入後は封筒に入れて、**11月5日（金）までに**各部局の担当係にご提出ください。

問い合わせ先 山形大学男女共同参画推進室（小白川キャンパス事務局2階）

e-mail: danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp 電話: 023-628-4939（内線4939）

※ここから質問にお答え下さい。

I. はじめにあなたの仕事や就学についてうかがいます。

Q1. 勤務・就学しているキャンパスについて、あてはまる1つに○をつけて下さい。

- 1 小白川 2 飯田 3 松波 4 米沢 5 鶴岡

Q2. あなたの所属部局について、あてはまる部局の番号に○をつけて下さい。

- 1 人文学部・（社会文化システム研究科）
- 2 地域教育文化学部・（地域教育文化研究科・教育実践研究科・養護教諭特別別科・附属教職研究総合センター）
- 3 理学部・（理工学研究科（理学系）・放射性同位元素実験室・理学部裏磐梯湖沼実験所）
- 4 医学部・医学部附属病院・（医学系研究科・医学部図書館・附属実験実習機器センター・
医学部情報基盤センター・附属動物実験施設・医学部遺伝子実験施設・環境保全センター・医学部R Iセンター・
医学部総合医学教育センター・医学部がんセンター）

- 5 工学部・（理工学研究科（工学系）・工学部図書館・工学部学術情報基盤センター・国際事業化研究センター・工学部国際交流センター）
- 6 農学部・（農学研究科・附属やまがたフィールド科学センター・農学部図書館・農学部遺伝子実験室・農学部学術情報基盤センター・農学部放射同位元素実験室・岩手大学大学院連合農学研究科）
- 7 基盤教育院
- 8 附属学校・附属幼稚園
- 9 事務局（監査室・研究プロジェクト戦略室・評価分析室・男女共同参画推進室・教育企画室・EM室・大学連携推進室・学務・入試企画室・国際課主幹を含む）・小白川事務部・小白川図書館・附属博物館・情報ネットワークセンター・高等教育研究企画センター・保健管理センター

Q 3. あなたの職種と勤務形態について、お聞きします。

(1) あなたの職種について、最もあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- | | | |
|------|---------------------|---------------------|
| 学生 | 1 大学院生（修士または博士前期課程） | 2 大学院生（博士または博士後期課程） |
| | 3 上記以外の学生 | ⇒学生の方はQ 8へ |
| 大学教員 | 4 大学教員 | 5 研究員 |
| 職員 | 6 事務系職員（施設系・図書系を含む） | 7 教室系技術職員・教務職員 |
| | 8 技能系職員 | 9 附属学校園教員 |
| 医療系 | 10 医療職員 | 11 医員及び研修医 |
| その他 | 12 その他（ | ） |

(2) 学生以外の方は、勤務形態についてあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- 1 常勤 2 定時勤務職員 3 短時間勤務職員 4 その他（ ）

※大学教員、研究員の方はQ 4に、学生の方は次ページのQ 8に、

職員・医療系・その他の方は4ページのQ11にお進み下さい。

※Q 4～Q 7は大学教員、研究員の方のみお答え下さい。

Q 4. 最もあてはまる研究領域を1つ選び、○をつけて下さい。

- 1 人文科学系 2 社会科学系 3 理学系 4 工学系 5 農学系
6 医歯薬学系 7 教育学系・教員養成系 8 総合科学系 9 その他（ ）

Q 5. 現在の職階について、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- 1 教授 2 准教授 3 常勤講師 4 助教 5 助手 6 その他（ ）

Q 6. 初めて大学・研究機関（山形大学以外を含む）に勤めてから、今年度で通算何年目になりますか。今年度から大学・研究機関で勤務している方はaに○をつけて下さい。出産・育児による中断があった方は、その年数を含めてご回答下さい。

a 今年度から大学・研究機関で勤務している⇒Q11へ

b 通算【 】年目 （出産・育児の中断期間【 】年を含む）

Q 7. 昨年度（平成 21 年度）の教育研究活動などについてうかがいます。

(1) 教育活動について、大学での勤務日数、また担当授業コマ数などをお答え下さい。出講キャンパスが複数にわたる場合、本務校であれば出勤日として下さい。

a. 学期中の大学での勤務日数	平均 週【 】日
b. 夏休み等長期休業中の大学での勤務日数	平均 週【 】日 2 長期休業はない
c. 授業・実習などのコマ数	平均 週【 】コマ 2 受け持ちはない
d. 他大学の非常勤(集中講義は1科目を1コマ)	平均 週【 】コマ 2 受け持ちはない
e. 学生の研究指導の時間数	平均 週【 】時間 2 受け持ちはない

(2) 学内外の会議・委員会等への出席回数をお答え下さい。また、研究活動について、出張や学術誌への掲載論文数をお答え下さい。

f. 学内の会議	平均 月【 】回 2 受け持ちはない
g. 学外の会議（地方公共団体等の委員）	平均 月【 】回 2 受け持ちはない
h. 学外の会議（学会や研究会の会合）	平均 月【 】回 2 受け持ちはない
i. 国内出張	昨年度 年【 】日
j. 海外出張	昨年度 年【 】日
k. 学術誌（紀要・共著を含む）の掲載論文数	昨年度 年【 】本

⇒大学教員、研究員の方は記入後Q11へ

※Q 8～Q10は学生の方のみお答え下さい。

Q 8. あなたの卒業・修了（中退を含む）した高校や大学の所在地について、以下の表のあてはまる番号にそれぞれ○をつけて下さい。また大学等には国公立/私立の別に○をつけて下さい。複数の大学等を卒業された方は最後に卒業した大学等についてお答え下さい。キャンパスが複数の都道府県にわたる場合は本部所在地ではなく、在学時に最も長い時間を過ごした所についてお答え下さい。

所在地 学校・職場	行って いない	山形県内	山形県以外の 東北地方	東北地方以外 の国内・海外	設置者の別に ○をつけて 下さい
高校	1	2	3	4	
大学学部	1	2	3	4	国公立・私立
修士課程（博士前期課程）	1	2	3	4	国公立・私立

Q 9. 修士課程（博士前期課程）の方にお聞きします。現在の課程修了後、博士課程（博士後期課程）に進学しようと考えていますか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- 1 進学するつもりはない 2 山形大学の大学院に進学したい 3 他大学の大学院に進学したい

Q10. あなたは大学院を修了した後、将来的に研究職に就くことを希望していますか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。 現在の課程後にさらに進学をお考えの方は、進学した大学院修了後の希望についてお答え下さい。

- 1 研究職以外（企業等） 2 研究職以外（小中高等の教員等） 3 研究職以外（公務員等）
 4 研究職（企業等） 5 研究職（大学・公的機関） 6 まだ具体的な希望は無い
 7 その他（具体的に

※ここからは全員がご回答下さい。

Ⅱ. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関して、お尋ねします。

Q11. 次にあげることについて、あなたの考えに近い番号を選び○をつけて下さい。

そう まあ あまり そう
 思う そう思う 思わない 思わない

- A. 子どもの世話は夫婦で協力して行うべきだ・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 B. 結婚は女性にとって不利になることが多い・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 C. 夫に経済力があれば、家事育児は妻がやるべきだ・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 D. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 E. 日本の大学は女性の教職員が少ない・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 F. 本学の女性教員はもっと増えてもよい・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 G. 本学は女性が働きやすい環境が整っている・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 H. 本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 I. 本学は男性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある・・・ 1 — 2 — 3 — 4

Q12. 日本の大学で女性教員や研究者が少ない理由について、どう思われますか。あなたの考えに近い番号を選んで○をつけて下さい。

そう まあ あまり そう
 思う そう思う 思わない 思わない

- A. 社会的な偏見があるから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 B. 男女間には能力の差があるから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 C. 幼少期から男女で違った育てられ方をするから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 D. 女子に高学歴を期待しない親が多いから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 E. 中学や高校での進路指導が適切でないから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 F. お手本になるような女性研究者が少ないから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 G. 男性が多い職場だから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 H. 労働時間が長いから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 I. 男性を採用する傾向があるから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 J. 家庭と仕事の両立が困難だから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 K. 育児期間後の復帰が困難だから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 L. 研究に興味を持つ人が本能的性向として女性に少ないから・・・ 1 — 2 — 3 — 4
 その他、お考えの理由があれば具体的に記入下さい（

Q13. 男女ともに、仕事と家庭を両立させていくには、どのようなことが必要だと思えますか。あなたの考えに近い番号を選んで○をつけて下さい。

そう　　まあ　　あまり　　そう
 思う　　そう思う　　思わない　　思わない

- A. 性別役割分担の意識を変えること 1 — 2 — 3 — 4
- B. 仕事中心の考え方を変えること 1 — 2 — 3 — 4
- C. 職場の雰囲気を変えること 1 — 2 — 3 — 4
- D. 上司の理解 1 — 2 — 3 — 4
- E. 労働時間の短縮 1 — 2 — 3 — 4
- F. 勤務時間の弾力化 1 — 2 — 3 — 4
- G. 多様な休業制度 1 — 2 — 3 — 4
- H. 休業中の代替要員の確保 1 — 2 — 3 — 4
- I. 休業中に自宅で仕事を継続できるしくみ 1 — 2 — 3 — 4
- J. 休業中の経済的支援 1 — 2 — 3 — 4
- K. 研究や授業等の支援員の確保 1 — 2 — 3 — 4
- L. 学内委員会等の負担の軽減 1 — 2 — 3 — 4
- M. 夕方5時以降の会議の廃止 1 — 2 — 3 — 4
- N. 職場内に授乳室やプレイルームを設置 1 — 2 — 3 — 4
- O. 家事のサポート 1 — 2 — 3 — 4
- P. 保育サービス利用の経済的支援 1 — 2 — 3 — 4
- Q. 病時保育 1 — 2 — 3 — 4
- R. 介護への支援 1 — 2 — 3 — 4
- S. 両立に関する精神的支援 1 — 2 — 3 — 4

その他、必要なことがあれば具体的に記入下さい ()

Q14. 現在、あなたが仕事・研究を行う際に障害となっている要因は何ですか。以下のうちから、主なものを3つまで選択し、あてはまる記号に○をつけて下さい。

- A. 職場・研究室の人間関係
- B. 主となる仕事と関係のない業務
- C. 管理的事務
- D. 研究・業務費の金額
- E. 研究や業務のスペース・設備
- F. 研究や業務時間が十分とれないこと
- G. 研究や業務を補助する人がいないこと
- H. 女性（男性）であるための差別
- I. 妊娠・出産
- J. 育児・子供の教育
- K. 介護・看病
- L. 家事
- M. 家族の人間関係
- N. その他(具体的に)

Q15. 以下の法律や本学の取り組みをご存知ですか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

	知っている	知らない
A. 男女共同参画社会という言葉	1 ——— 2	2
B. 男女共同参画社会基本法	1 ——— 2	2
C. 学長による山形大学男女共同参画推進宣言（平成21年1月）	1 ——— 2	2
D. 男女共同参画推進室の設置（平成21年2月）	1 ——— 2	2
E. 山形大学男女共同参画基本計画（平成22年6月）	1 ——— 2	2
F. 文部科学省平成21年度科学技術振興調整費 「女性研究者支援モデル育成」に本学が採択されたこと	1 ——— 2	2
G. 託児サポーター制度（小白川キャンパス）	1 ——— 2	2
H. 各学部での女性研究者と学長・学部長の懇談会	1 ——— 2	2
I. 男女共同参画関連のシンポジウムを毎年開催していること	1 ——— 2	2
J. 全キャンパスでの女性研究者への巡回聞き取り相談	1 ——— 2	2
K. 男女共同参画推進室のニューズレター	1 ——— 2	2
L. 男女共同参画推進室のメールマガジン	1 ——— 2	2
M. 男女共同参画推進室のメーリングリスト	1 ——— 2	2

Q16. 次のようなことを感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

	よくある	ときどき	あまり	まったく
	ある	ない	ない	ない
A. 忙しすぎると感じる	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4	2	3	4
B. 出勤・通学したくないと感じる	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4	2	3	4
C. 今の仕事・就学を辞めたいと思う	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4	2	3	4
D. 会議等で発言しにくいと思う	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4	2	3	4
E. 性別によって異なる処遇があると感じる	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4	2	3	4
F. 職場・学校に何でも話せる人がいないと感じる	1 ——— 2 ——— 3 ——— 4	2	3	4

Ⅲ. 最後にあなた自身やご家族についておうかがいします。

Q17. 年齢（10月1日現在）と性別をお答え下さい。あてはまる記号に○をつけて下さい。

- 年齢 a. 24歳以下 b. 25～29歳 c. 30歳～34歳 d. 35歳～39歳
 e. 40～44歳 f. 45～49歳 g. 50～54歳 h. 55～59歳 i. 60歳以上

- 性別 【 a. 女性 b. 男性 c. ab以外 】

Q18. 家族構成についてうかがいます。

(1) 配偶者・パートナーの有無や同居・別居について、あてはまる番号に○をつけて下さい。

- 1 いない（結婚したことはない） ⇒ Q19へ 2 いない（離別・死別） ⇒ Q19へ
 3 いる（同居している） ⇒ (2)へ 4 いる（別居している） ⇒ (2)へ

(2) 配偶者・パートナーがいる方にお聞きします。配偶者・パートナーは現在、収入を伴う仕事を
していらっしゃいますか。最もあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

1 していない(家事専業・学生等) ⇒ Q19へ

2 常勤・フルタイムで就業 ⇒ (3)へ

3 非常勤・パートタイムで就業 ⇒ (3)へ

(3) 配偶者・パートナーが現在、収入を伴う仕事をいらっしゃる方は、その職種をお答え下さい。

1 会社員(研究職以外)

2 公務員(研究職以外)

3 民間企業の研究職

4 大学教員・公的機関の研究職

5 自営業・家族従業者・農業等

6 その他()

Q19. あなたは、家事や育児・介護を平日にどのくらい行いますか。 育児や介護の必要な家族
がない場合は2に○をつけ、家族はいてもご自身は行わない場合は0分とご記入下さい。

家事・・・【 】時間 【 】分

育児・・・【 】時間 【 】分

2 育児が必要な家族はいない

介護・・・【 】時間 【 】分

2 介護が必要な家族はいない

Q20. お子様の有無や希望についてうかがいます。

(1) あなたは、お子様をお持ちですか。 現在妊娠中でまだ生まれていない方は1「いない」に○をつけて下さい。

1 いない ⇒ (2)へ

2 いる ⇒ (3)へ

(2) お子様がいらない方は、将来持つ希望の有無と、理想の子ども数を記入下さい。

1 ない ⇒ Q21へ

2 ある (理想の子ども数 【 】人) ⇒ Q21へ

(3) お子様がいる方は、年齢別のお子様の人数を記入下さい。また、理想の子ども数を記入下さい。

0～2歳 【 】人 3歳～小学校就学前 【 】人 小学生 【 】人

中学生 【 】人 高校生 【 】人 上記以外 【 】人

理想の子ども数 【 】人

※現在、中学生以下のお子様をお持ちの方はQ21～Q24にお答え下さい。

※それ以外の方は、Q25へお進み下さい。

Q21. お子様の病気で仕事・大学を休んだ日数についてうかがいます。

(1) お子様の病気で休んだことは、昨年(1月から12月)、年に何日くらいありましたか。

【 】日位

(2) 休んだ日数は十分でしたか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

1 十分だった ⇒ Q22へ

2 十分でなかった ⇒ (3)へ

(3) 十分でない場合、何日位休みが必要だと思いましたか。また、休めなかった理由があれば、
具体的に記入下さい。

【 】日位必要 ⇒十分休めなかった理由()

Q22. お子様**が**病気のとき、どのようなサポートがあればよいと思いますか。最も必要だと思**うもの1つ**に○をつけて下さい。

- 1 病児・病後児保育 2 休んだ場合の業務の代替者 3 育児を理由に休める職場の雰囲気
4 その他 ()

Q23. 昼間、またあなたが**残業**する場合に、育児を行っているのは主にどなたですか。それぞれの時間について、以下の表のあてはまる番号に○をつけて下さい。

育児者 時間	配偶者	子ども の 祖父母	保育所	幼稚園	学童保育	本人・きょうだいの 自己管理	その他 (具体的にご記 入下さい)
昼間	1	2	3	4	5	6	
残業する 場合	1	2	3	4	5	6	

Q24. 子育てと仕事を両立させる上で、**困難**に感じることはありますか。次の中からあてはまる記号を**いくつでも選んで**○をつけて下さい。学生の方は就学と子育てについてお答え下さい。

- a. 仕事に対して家族の理解が得にくい b. 職場で子育てに対する理解が得にくい
c. 仕事が忙しく子どもにかけられる時間が削られる d. 早退、遅刻、休みなど、勤務が不規則になる
e. 仕事が忙しい時のサポート体制が十分でない f. 疲労、睡眠不足、精神的ストレスなど
g. 仕事と子育てを両立させようとする**と**不利益を被る
h. 仕事と子育ての両立に関する悩みを相談する人がいない
i. その他 ()

※全員がご回答下さい。

Q25. 最後に、本学における**男女共同参画推進**について、ご意見があればご自由にお書き下さい。

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。封筒に入れ、各部局へご提出下さい。